

東條隆進教授古稀記念号発刊の辞

社会科学学会会長 畑 恵 子

東條隆進先生はめでたく古稀を迎えられ、本年3月末日をもちまして、早稲田大学を定年退職なされました。先生は1992年に本学部教授として着任されてから、21年にわたり、社会科学部および社会科学研究科の教育・運営に尽くされてきました。先生のご退職は私どもにとって淋しい限りではございますが、先生が最後の日までお元気に教壇に立たれ、ご研究に専念されましたことを、心よりお慶び申し上げます。社会科学学会一同からの感謝の気持ちを込めて、ここに本号を東條隆進先生の古稀記念号として刊行させていただきます。

東條先生は学部では「社会経済学」「経済思想史」、大学院では「経済社会学」などのご講義および研究指導を担当なさいました。先生の最終講義は「良い社会とはなにか」という題目で行われましたが、先生は同名のご著書もあらわしておられますし、日本経済政策学会でも同名の共通論題でご発表なさっています。先生が追究なさってきたこのテーマは、社会科学総合学術院に属する私ども全員が考えていかなければならない課題であることを、先生からのメッセージとして受け止めさせていただきます。先生は最終講義のあと、参加者ひとりひとりと握手をされていました。そのお姿は先生の温かくおらかなお人柄そのものであると感じました。また、教授会での先生のご発言が懐かしく思い出されます。ウィットに富んだ、しかし本質を突いたご発言は、いつも私たちに何を考えるべきか、何を議論すべきかを示してくださっていたと思います。

先生は学部理念の一つである「学問の総合化」にご尽力され、社会科学部らしい研究・教育を支えてくださいました。先生の学問に対する真摯さ、教育に対する情熱、そして学部に対する熱き思いに敬服し、私どもは大いに学ばせていただきました。

た。本当にありがとうございました。私どもは先生のご意思を引き継いで、学問の総合化・学際化を進めていく所存です。しかし、昨今、学術院をとりまく環境が大きく変わるなか、学部も大学院も大変難しい局面を迎えています。今後とも、私どもをご指導くださいますよう、社会科学総合学術院のさらなる発展のためにお力添えをくださいますよう、お願い申し上げます。

ご退職後も「よい社会とはなにか」をご研究されていかれることと存じます。先生にはご健康に留意なされ、お元気でご活躍なされますよう、お祈り申し上げます。